

週刊センターニュース No.300

第300号(2010年3月8日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: <http://www.rche-kanazawa-u.jp/>



〇〇〇 共同学習会のご案内 〇〇〇

第259回

日時: 3月11日(木) 18:00~19:30 ※開催時間が通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス 総合教育1号館 2階大会議室

企画者: 青野透(大学教育開発・支援センター教授)

報告者: 林透(北陸先端科学技術大学院大学、大学教育開発・支援センター客員研究員)

日水 栄(学生部学務課)

テーマ: 「大学院の教育力向上を主とした教職員職能開発(FD・SD)について」

詳細: 金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学との教育研究活動支援事業として今年度採択された「教職員の職能開発(FD・SD)に関する実証的研究」の成果報告について、3月18日、19日に京都大学で開催される第16回大学教育研究フォーラムにおいて発表する予定である。今回は、その成果報告に先立ち、学内において発表を行い、参加者とともに議論したい。

第260回

日時: 3月16日(火) 16:00~17:30 ※開催曜日・時間が通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス 総合教育1号館 1階小会議室

テーマ: 「第7回大学教育セミナー アクティブラーニングが創る大学教育の未来 報告1」

詳細: 第7回大学教育セミナー「アクティブラーニングが創る大学教育の未来」が先月22日に開催された。学内外75名の大学教員、企業関係者にご参加頂き、議論も大変活発に行われた。アクティブラーニングを実施するにあたり、現状や様々な実践が報告され、今後の大学教育の展開、育成すべき人材、教育観について、再び考える機会となった。今回の共同学習会は榎見由美子副学長/理事(教育担当)のご指示により、本セミナーの学内展開、および振り返りの機会としたい。

今回は赤堀侃司先生(白鷺大学教授/東京工業大学名誉教授)の基調講演のビデオを見て、振り返り機会を含め、今後の展開について議論を行いたい。22日のセミナーは平日に行われたこともあり、参加希望が多数だったが、残念ながら参加できなかった教職員もおられた。今回の共同学習会では当日参加できなかった教職員の方々にも参加して頂きたい。

スケジュール: 16:00 開会の挨拶 榎見由美子(副学長/理事(教育担当))

16:05~17:05 ビデオ閲覧会

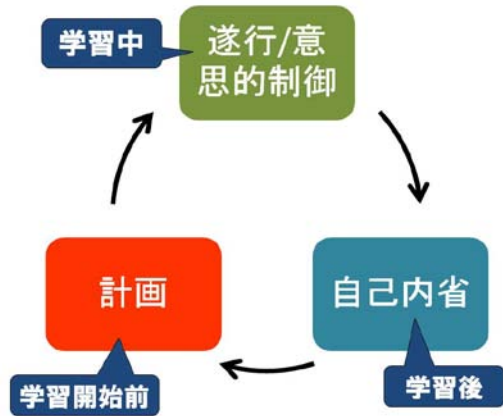
17:05~17:30 議論

〇〇〇 自己調整学習とe-learning 〇〇〇

近年、高等教育機関において学習管理システム(Learning Management System: LMS)を導入し、教材をただ配信するだけではなく、電子掲示板を活用することで学習者間のディスカッションをさせることや、LMSによっては授業模様を配信し、完全なオンライン学習の環境を提供できるものもある。

e-learning において、運用面で検討すべきことの1つとして、受講者の学習情意面をどのように支援するかである。対面講義が定期的であり、対面とのブレンド形態でe-learningを使用する場合、学習への動機づけを行う機会は存分にある。しかし、完全オンライン型の場合は動機づけが困難である。またドロップアウトも起こりやすいため、修了率が低くなる。企業内人材育成において、内定者向けの教育プログラムをe-Learningで提供する企業もあるが、同じような考え方にに基づき、高等教育では初年時向けの教育プログラムの提供を合格者に対して提供することを検討する教育機関もある。最近では初年時教育において、一定の学力を担保するためや、リメディアル教育の一環として行う高等教育機関もあるため、完全オンライン型のe-Learningが高等教育において無縁ではない状況に今後なっていくように思われる。そのため、e-Learning受講者に対する学習の動機づけについて今から検討しておくことは無駄ではないだろう。

e-Learningにおいて学習の動機づけに重要な役割を果たすのはメンターの存在である。メンターは学習内容を教える存在ではない。学習を進めるにあたり、問題となり得ることの解決支援、相談にのることや励ましなどの動機づけなどメンタリングという活動を行う存在である。学習方法を提案することなども行う場合もある。しかし、e-Learningにおけるメンタリングにおいて忘れてはならないことは学習者が自分で学習することができるように支援することである。それは自己調整学習者の育成支援をすることでもある。自己調整学習とは、学習目標を達成するために、自分で学習方略、動機づけも含めて自分で検討し、学習することである。自己調整学習には



学習計画、学習遂行、自己内省の3つの段階があり、それぞれの段階で学習支援する項目が変わる。例えば、学習遂行の段階では学習者の動機づけや学習方略の使用支援が有効な支援となる。自己内省段階では学習者個人が立てた小目標と達成度のギャップを認識させる支援もあるが、次の計画につながるような内省を促進することが重要になる。しかし、このサイクルでは学習計画段階の支援がキーとなる。動機づけはもちろんのこと、無理のない学習計画の立案、学習環境の設定など、学習遂行や自己内省にも少なからず影響する要素を持つからである。例えば、学習計画の立案をする習慣がある学習者とそうではない学習者では学習の時間帯や自分が忙しいかどうか

かの判断に違いがあることが示されている(松田・山田, 2010)。具体的には学習計画を立てる習慣がある学習者は午前から昼に学習を行う傾向があり、学習計画習慣がない学習者は深夜に学習する傾向がある。また後者の学習者は不規則な生活を過ごし、自分が忙しいと認識していることが示されている。さらに学習者のタイプによって支援方法にも違いが現れるため、学習計画段階の支援は自己調整学習者育成の支援にとって大変重要であり、慎重にする必要がある。この段階を支援することで、潜在的なドロップアウトを未然に防ぐ事も期待できる。

自己調整学習は対面授業でも重要であるが、e-Learningでは特に注目され、強く意識されるようになった。メンターやシステムでの支援など、いろんな方法があるだろう。しかし、ポイントは支援なしでは何もできない学習者にならないようにすることである。その意味では支援をしない段階についても自己調整学習者育成の支援として検討する必要があるだろう。自己調整学習についてご興味がある方はぜひ下記を読んで頂きたい。

ディール・シャンク、バリー・ジーマン著、自己調整学習と動機づけ、北大路書房、2009

自己調整学習の成立過程—学習方略と動機づけの役割、伊藤崇達、北大路書房、2009

【参考文献】

松田岳士・山田政寛 学習計画習慣の有無による e ラーニングにおける学習行動の相違について、日本教育工学会論文誌、33(Suppl.), 113-116 (文責：教育支援システム研究部門 山田政寛)

○●○ 金沢大学理工学域主催 第2回FDシンポジウムのお知らせ ○●○

以下の通り、理工学域のFDシンポジウムが開催されます。基調講演の大塚先生は我が国の高等教育のFD拠点として知られる京都大学高等教育研究開発推進センターのご所属で、今回は大学院教育の課題について講演されます。本学においても理工ばかりでなく人間社会、医薬など、すべての大学院研究科において教育課程編成方針の明確化やコースワークとしての教育プログラムの開発は共通する今後の課題であり、ご講演ではそのような課題に取り組む上での有益なご提言をいただくことが期待され、当センターも注目しております。全学からの教員の参加が望まれるところです。

日時：平成22年3月15日(月) 13時00分～

場所：自然科学大講義棟 レクチャーホール・AV講義室

プログラム：1. 開会 13:00～13:10 挨拶 中尾慎太郎(理工学域長)

2. 特別講演 13:10～14:10「大学院教育に今求められているものは何か？」(仮)

大塚雄作(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

3. 全体討論 14:20～15:55

4. 閉会 15:55～16:00 山崎光悦(教育方法改善委員会委員長)

各部局で開催されますFDにつきまして、広報させていただきますので、お手数でも info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp までご連絡ください。また学内外で開催されるFD情報は、ポータル上の「FDカレンダー」でもご覧いただくことが出来ます。

